第５７回 東北農業経済学会・岩手大会のご案内（第２報）

標記大会についてご案内申し上げます。

研究者、行政・普及関係者、農業関係団体、農業者の皆様の積極的なご参加をお待ちしております（参加申込は、別紙様式により8/25まで）。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえ、本大会は、**会場参加（岩手県内在住者に限る）またはオンライン参加の併用制**で準備しておりますが、今後の流行拡大、政府・自治体からの指示・要請等によっては、**全面オンライン開催への移行や延期等**の可能性もあります。**変更のある場合**、参加申込者には、**Eメールでご案内**するほか、**学会ホームページ及び学会メーリングリスト**等で、随時お知らせする予定です。

＝＝

◆日　程　２０２１年９月４日（土）諸会議、個別報告　９月５日（日）大会シンポジウム、総会

◆場　所　岩手県立大学 滝沢キャンパス、オンライン　　※総会の日程が第１報から変更になりました

◆参加費　無料

＝＝

◆大会シンポジウム（９月５日（日））　※報告内容等は2ページ参照

テーマ：スマート農業技術の導入等による東北水田農業経営のイノベーション

【会場】岩手県立大学滝沢キャンパス 共通講義棟 講堂、オンライン

＝＝

◆主　催　東北農業経済学会岩手大会実行委員会

（委員長：新田 義修（岩手県立大学）　事務局長：前山 薫（岩手県農業研究センター））

◆共　催：岩手県立大学、岩手県、農研機構 東北農業研究センター、ＪＡ岩手県中央会、

（一社）岩手県農業会議、岩手県土地改良事業団体連合会、（公社）岩手県農業公社

※　本学会大会は開催にあたり、岩手県立大学全学研究支援費の助成を受けています。

＝＝

◆プログラム

―【２０２１年８月下旬～９月４日（大会第１日）の期間】――――――――――――――――――――

〇個別報告　オンライン開催（YouTube東北農業経済学会チャンネル）

※　上記の期間、各報告者が作成した**報告動画を「YouTube東北農業経済学会チャンネル」**において公開します（**報告一覧は4ページ**参照）。**各自、報告動画を視聴**いただき、質問等のある場合（学会員に限る）、質問票（後日、学会ホームページに掲載予定）に質問等を記入のうえ、学会事務局（tohoku-agriecon@grp.tohoku.ac.jp）あて、９月４日までにEメールで送付してください。

その後、各報告者から、質問者に対し、回答を送付いたします。

―【２０２１年９月４日（土）（大会第１日）】――――――――――――――――――――――――

〇編集委員会　13:00～14:30　**オンライン開催（Zoom）**

〇学会賞選考委員会　14:00～14:45　**オンライン開催（Zoom）**

〇役員会　15:00～17:00　**オンライン開催（Zoom）**

※　各会議担当者から、該当者にオンライン会議（Zoom）の案内をいたします。

―【２０２１年９月５日（日）（大会第２日）】――――――――――――――――――――――――――――――――

会場：岩手県立大学滝沢キャンパス 共通講義棟 講堂・オンライン（Zoom）

〇受付	9:00～
〇開会・挨拶	9:30～ 9:35
〇大会シンポジウム	9:35～16:15

テーマ：スマート農業技術の導入等による東北水田農業経営のイノベーション

座　　長　新田義修(岩手県立大学) ・ 磯島昭代(農研機構 東北農業研究センター)

東北農業の現状は、県ごとに多様性を維持しつつ、小麦、大豆、飼料作(稲)など土地利用型作物、園芸作他の導入などが進められているものの、その中心は、水田農業といえる。その中で、大規模な担い手の増加やそれに伴う省力技術の必要性、雇用管理、零細分散錯圃による作業能率の悪化、土壌条件の差や管理作業の繁雑化などによる単収水準の低下などが課題であると認識されている。これらを解決する手段の一つとして、「スマート農業技術」に注目が集まっている。そこで、本シンポジウムでは、スマート農業技術の導入他について東北水田農業経営の主要な分類の担い手から事例を選定し、各地域・経営体の課題解決に向けて、スマート農業技術を含む新技術の導入がいかに図られ、どのようなイノベーションを誘起しているのか、課題は何かについて検討する。具体的には、①スマート農業技術を活用するには、どのような取り組みが必要になるのか、②イノベーションを起こしうる経営風土、環境はどのようなものか、③技術評価、社会実装に関する社会科学研究のあり方について検討する。

座長解題 新田義修(岩手県立大学)

基調報告 東北水田農業における技術・経営・地域のイノベーションを評価する
―社会科学はイノベーションをどう評価し社会実装するか―
門間敏幸(東京農業大学)

第1報告 超大規模法人における生産効率化への取り組み
―スマート農業技術を活用した多筆・分散圃場の営農データの取得・活用方策―
宮路広武(農研機構 東北農業研究センター)・清水一孝((株)西部開発農産)

第2報告 大規模集落営農法人における担い手の確保・育成の実態とスマート農業が与える影響
稲葉修武・笹原和哉(農研機構 東北農業研究センター)

第3報告 スマート農業技術を活用した低コスト化と高付加価値化による新たな地域農業の創出
―青森県のA経営を事例として―
佐藤拓郎((株)アグリーンハート)・安江紘幸(農研機構 東北農業研究センター)

第4報告 一戸一法人におけるスマート農業技術導入の実態と今後の取組方向
高橋章郎((有)アグリスト)・幸田和也(農研機構 東北農業研究センター)

第5報告 岩手県沿岸被災地域の水田農業における技術導入と新たな展開
―震災後に設立された集落営農法人の取組から―
吉田徳子・前山 薫(岩手県農業研究センター)

総合討論

座長総括 磯島昭代(農研機構 東北農業研究センター)

〇総会	16:30～17:30

＝＝

◆大会に関する各種申し込み等について

１．シンポジウムの参加方法

参加費は無料です。参加方式は、岩手県在住者は、「会場参加」または「オンライン参加」のいずれかを選択、岩手県外在住者は「オンライン参加」のみとなります。８月25日（水）までに、別紙様式１「大会参加申込」により、Eメールにてお申し込み下さい（申込先は下記のとおり）。

なお、岩手県立大学会場での大会参加（岩手県内在住者に限る）は当日も受け付けますが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、受付の混雑を避けるため、なるべく事前に申し込みいただくようお願いします。

【シンポジウム参加申込・問合先】岩手県農業研究センター 企画管理部農業経営研究室
藤澤 真澄 e-mail: masu-taka@pref.iwate.jp TEL 0197-68-4404

（１）会場参加（岩手県内在住者に限る）について

会場参加者は、当日、マスク着用のうえ、会場となる岩手県立大学滝沢キャンパス共通講義棟の講堂前に設置する受付にお越しください（6ページのキャンパス図参照）。検温をした後、受付を行い、会場に入場します。マスク非着用の場合や、検温で発熱等がみられた場合、入場をお断りすることもありますので、ご了承ください。

※ 当日、下記に該当する方は会場参加を控えていただくよう、お願いします。

① 発熱や風邪症状等、新型コロナウイルス感染症に類似する症状がある場合

② 過去14日間、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されている区域等、新型コロナウイルス感染症の感染拡大がみられる地域を往来した方

③ 新型コロナウイルス感染症の陽性者と濃厚接触があった方

なお、シンポジウム当日は日曜日のため、キャンパス構内の食堂や売店は休業になります。このため、昼食は、キャンパス外の飲食店等で取っていただくか、各自、持参したものを休憩室（シンポジウム会場の講堂近くに設置予定）で取っていただくことになります。

（２）オンラインでの参加について

① オンライン会議ツールのZoomを用います。Zoomによるシンポジウム参加には、PC（カメラ、マイク機能付き）、Zoomアプリ、インターネット回線が必要になります。Zoomクライアントアプリは無料でダウンロード可能ですので、インストールしていない場合、各自、インストールをお願いします。

② 岩手大会実行委員会から、大会前に、オンライン参加申込者に対し、Eメールでオンライン会議(Zoom)の案内をいたします。

③ 大会シンポジウムの時間（9:30開始）になりましたら、案内のあったURLに接続し、Zoomを起動して、オンライン会議に参加してください。Zoom上では、名前を「氏名（所属）」のように入力願います。

④ 大会シンポジウム終了後、同じオンライン会議室（ミーティングID）で、引き続き、総会を行います（総会に出席しない方は、シンポジウム終了後、会議を退出してください）。

２．個別報告について

（１）個別報告の閲覧及び質疑の方法

① 個別報告は、**８月下旬**に**報告動画（各報告20分）をYouTube東北農業経済学会チャンネル**で公開します。同チャンネルの**URL**は、**学会ホームページ**に掲示するほか、**大会参加申込者にEメール、学会メーリングリスト**で連絡します。

② **個別報告一覧**は以下のとおりです。

	報告者(所属)	タイトル
1	馬赫(Ma He)（東北大学農学研究科）	Study on Traceability System Risk Management of the Food Supply Chain for Chinese Infant Accessory Food Industry
2	川﨑訓昭（秋田県立大学生物資源科学部）	地域の要望・実情を考慮した経営戦略と人材育成
3	須田茂樹（山形県農業経営研究会）	稲作大規模家族経営の継承者の展開と今後の方向
4	泉谷眞実（弘前大学）	東北稲作地域における稲わらの用途転換とわら焼きの縮小プロセス
5	唐冠琰(Tang Guanyan)(東北大学大学院農学研究科)	若い世代女性農業者のパーソナルネットワーク
6	王聰(Wang Cong)（The University of Tokyo）	Does Non-farm Employment Reduce Poverty and Vulnerability?Evidence from Nepal
7	長沢咲希（秋田県立大学大学院）	農業法人における若年正社員のアイデンティフィケーション ―質的分析方法「SCAT」による接近―
8	小田嶋和希（富士大学大学院(院)）	登録再生利用事業者における食品リサイクル肥料の販路展開論理 ―岩手県を事例に―
9	白崎友也（秋田県立大学大学院）	中山間地域における住民共同店舗の継続性評価 ～経済的・社会的観点から～
10	菅原靖（山形大学）	ウィズコロナ時代における農村ツーリズムの意義と課題
11	殷子鈞（Yin Zijun）（東北大学・農学研究科・環境経済学）	コロナ禍による自然観光への意識変化 ―混雑緩和と入域料支払額に着目して―
12	金子あき子（龍谷大学）	台湾の外食企業K社の分析に基づく日本産和牛の海外販売戦略の考察
13	中村勝則（秋田県立大学）	集落営農法人における外部雇用と人的資源管理の課題
14	六本木日和（弘前大学）	風雨等気象災害による農業被害と農業経営の対応実態
15	樋口倫生（農林水産政策研究所）	インドネシアと中国の食品製造業の産業内貿易 ―要素調整圧力に焦点を当てて―
16	早川紘平（東北大学大学院農学研究科）	雇用型養豚法人経営における人的資源管理施策と従業員定着に関する比較事例分析

③ **８月下旬の動画公開後から９月４日の間**に、YouTubeチャンネルで公開された**報告動画を、各自、視聴**してください。

④ **質問等のある場合（学会員に限る）、質問票に質問等を記入**のうえ、**学会事務局**(tohoku-agriecon@grp.tohoku.ac.jp)あて、**９月４日までにEメール**で送付してください（質問票の様式は、学会ホームページに掲載する予定です）。

（２）個別報告者の動画作成・提出

個別報告の申込をされた方は、下記により、報告動画の作成・提出を行ってください。

① 報告者は、**報告用プレゼンテーション画面に、音声等で報告内容を入れた動画（20分以内）を作成**してください(時間厳守)。

動画の作成方法は、パワーポイントに動画or音声埋め込み、収録動画にAdobeプレミア等でテキスト・画像挿入、パワーポイント等を用いた報告の様子を撮影するなどの方法があります。各自、方法を選択のうえ、動画を作成してください。

② 動画の**提出期限は、８月20日（金）17:00**です。**個別報告申込者にEメールで連絡した方法で動画を送信**願います。

③ 資料の配布は行いません。資料配布をしない前提で動画を準備していただけますようお願いします。

④ **大会終了後に学会事務局から質問・コメント等がEメール**で届きます。指示に従い、必要な回答、報告論文の提出などを行ってください。

【個別報告に関する問合先】農研機構 東北農業研究センター 水田輪作研究領域
笹原 和哉 e-mail: sasa@affrc.go.jp TEL 019-643-3493

岩手県立大学滝沢キャンパス アクセス・構内図

◆会場へのアクセス

住所：岩手県滝沢市巣子152-52

交通：盛岡駅より

【IGR いわて銀河鉄道】

盛岡駅～滝沢駅まで乗車（約 15 分）、滝沢駅～岩手県立大学まで

徒歩約 15 分

【バス「県立大学」行き】

盛岡駅東口バス停22番乗り場から岩手県交通/岩手県北バス「岩手県立大学」行きに乗車、約30分